

# たてはく

令和2年度 前期特別企画展 **立山があるある展**

会期：7月18日(土)～8月30日(日)

富山県のシンボルである「立山」。誇らしくて身近な「立山」は、古くから文学作品や絵画、音楽やデザイン、キャラクターなどさまざまな「カタチ」で表現されています。

本展では、「立山」と言えば、これ！といった定番のものから、知っているようで知らない目からウロコのものまで、「これは！」と選んだ4つのテーマを中心に、立山の絶景を含め、人びとが「立山」に込めた「こころ」と「カタチ」を紹介します。

「立山」に思いを込めた歌、「立山」を描いた絵画やイメージ、「立山」にちなんだ名前や鉄道列車、身の回りの「立山」など、「立山」のいろいろな「カタチ」が時代を越えて大集合します。加えて県内各地から見られる「立山」の風景や、なかなか見られない「立山」の景色、雄山神社峰本社130年ぶり遷宮祭の映像なども満載。「立山」にちなんだキャラクターや横綱・大関も等身大パネルで展示。一緒に撮影もできます。

あなたの心の中の「立山」、私のとっておきの「立山」をぜひ見つけてください。(森山義和)



## ◆みどころ

- ①立山を詠んだ万葉集の歌を大集合
- ②立山曼荼羅から観光ポスターまで立山を描いた絵画を大集合(谷文晁と木村立嶽と横山大観を同時に初展示)
- ③立山が描かれたマンホール蓋を大集合 **初展示**
- ④立山にちなんだ電車やヘッドマークを大集合 **初展示**
- ⑤立山が校歌に入っている学校を大集合 **初公開**
- ⑥学校で学んだ立山を大集合 **初展示**

会場 展示館1階 企画展示室  
開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)  
観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料  
会期中の休館日 月曜日(7/20・27、8/3・17・24)

展示解説会 いずれも14:00～ 7/18(土)・25(土)  
8/8(土)・9(日)・10(月・祝)・22(土)・29(土)

## 目次

令和2年度前期特別企画展「立山があるある展」	1
たてはく新任スタッフ紹介	2
越中立山のクタベって??	2
山岳集古未来館 資料紹介	
堀田彌一資料から一ナンダ・コートの装備⑨ オーヴァーミトン(1)	3
ミュージアムdeナイト in 芦峯寺 中止のおしらせ	3
まんだらナイトウォーク ー光りと香りのページェントー	3
たてはく探検隊開催中止のおしらせ	4
ボランティア活動報告	4
令和2年度 文化振興財団催し物一覧	4
編集後記	4





## たてはく新任スタッフ紹介



学芸課副主幹 <sup>すず き</sup> 鈴木 <sup>ひる たか</sup> 博喬

4月1日付で水墨美術館から異動してきました。これまで、水美で20年、その前に近美で5年勤務しました。2つの美術館勤務で培ってきたものを、微力ながらこの立山博物館の役に立てよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。富山が誇る立山に関わる仕事に携わることになり、嬉しく誇りに思う反面、これまでと異なる分野での仕事に不安も感じています。ちなみに、生まれは京都市、育ちは福岡市、墓は山形県の川西町で、富山県人気質に関西人と博多っ子と東北人の気質がミックスされた変わった気性を持っているかもしれません。



展示館受付 <sup>し たか</sup> 志鷹 <sup>のり こ</sup> 法子

4月から勤務しています。以前、まんだら遊苑に勤務していたこともあり、立山の自然や開山物語などは興味を持っていました。3階のジオラマの木々や鳥などは何年も経つのに状態を保ちながら変わらずに見学できるのは最高です。2階の立山開山の展示は常設でありながら時々違うものを見ることができるのもよいところだと思います。2本立ての映像がある遙望館や、五感で立山曼荼羅絵図を体験できる、まんだら遊苑など魅力的なものがたくさんあります。新型コロナウイルスが早く収まり、またたくさんの人に見に来てもらいたいです。



## 越中立山のクタベって??



昨夏に開催した、前期特別企画展「立山ふしぎ大発見!」。そこで紹介した、「クタベ(クタヘ)」と名乗る、〈顔は人、体は獣〉の不思議な霊獣(妖怪)が、「疫病除けの霊獣(妖怪)」として人気となっています。

その特別企画展で、存在を覚えてもらおうと思って作った「クタベ缶バッジ」が、「疫病除けになるかも!」とつけてくださる方が多くなりました。また、職員が「立山でクタベに出会ったら、どんな気持ちかな??」と言って制作したクタベ模型も人気となり、撮影者が増えています。

ところで、このクタベについて、大阪府立中之島図書館所蔵の摺物(図版1)には次のようなことが記されています。

立山の薬種塚に薬種を掘りにきた者の前に現れ、自身を「クタベ(クタヘ)」と名乗ります。そして、当年から4、5年のうちに名前のない(知れ渡っていない、未知の)悪病によって多くの人々が死することを予言し、自身(クタベ)の姿をみる者はその難を逃れることができると告げたというのです。

同じ資料群の中には、クタベをパロディ化した「スカ尻」の摺物(図版2)もあります。クタベの摺物が摺られた当時も、疫病除けとして人気があったことがうかがわれます。江戸時代、「立山は不思議な霊獣(妖怪)が棲む」と考えられるほど、神秘的な山だったのでしょう。

越中立山のクタベは、江戸時代と同じく、現在でも「未知の疫病」に対する不安を和らげてくれる存在になりつつあります。クタベの存在が、立山の自然や歴史・信仰など「立山の魅力」を知る機会になってくれると嬉しいです。(細木ひとみ)

©画像を許可なく複製、または使用することを禁止します。



図版1 俗郷(摺物、大阪府立中之島図書館蔵)

「<sup>くたべ</sup>俗郷」  
顔が人なので「イ(人偏)」  
体が獣なので「彡(獣偏)」



図版2 スカ尻(摺物、大阪府立中之島図書館蔵)







## 山岳集古未来館 資料紹介

### 堀田彌一資料から—ナンダ・コートの装備⑨ オーヴァーミトン(1)

堀田彌一の装備、毛糸編五本指手袋に続いて今回は、オーヴァーミトンを取り上げる。前回も引用した文献に、布川欣一が「毛糸の五本指の上にノルウェー製のスキー手袋を重ね、さらにサージ製のオーバー手袋を重ねた」と記した、その「オーバー手袋」である（『堀田彌一の装備品 初のヒマラヤ登頂』、『山道具が語る日本登山史』、1991）。

この手袋について、資料梱包の紙片は「スキー用手袋（オーヴァーミトン?）」、堀田の装備を初めて一般公開した特別展の解説書は「オーバーミトン（木綿製）」と記す（『ヒマラヤ—人・自然・文化—』、千葉県立中央博物館、2001年）。「スキー用手袋」か否かを問わず、その形状はミトン（二又手袋）そのもので、登頂時に手を護る装備の最外殻を担ったことは写真記録から明らかなので、ここでは、その形状と機能を端的に言い表す名称として、資料名に「オーヴァーミトン」を用いる。

このミトンは黒色のサージ（羊毛）製。生地を二つに折って折山を拇指側に、その左右を掌面・背面とし、穿口小指側から四指袋先端の丸みを折山まで縫合して四指袋と前腕筒部が一体のミトン本体を作る。手首から穿口までは縫合の掌面側に楔形の共布を接ぎ、穿口へと広がる前腕部のテーパをなす。折山の中上部に開口を設けて拇指袋を縫合、拇指袋腹面から股を経て対向する四指袋の示指部に連続する補強当布を施す。穿口付近に附属する締帯は、穿口小指側の縫合と共に基部を縫い付けた長短二本の平帯、すなわち端に締金具を持つ短帯と篋状の遊動端に終わる長帯からなる。これを、それぞれ背側と掌側から廻して背面で締める。締金具は軽く堅牢なアルミ合金製隅丸矩形枠で、枠内には両端の穴に枠体長辺が通る遊動桿がある。長帯はこの遊動桿を巻いて枠体を潜り、任意の位置に固定される。長帯の篋状端は、締金具からの脱落抑制と引タブの機能を併せ持つ。内側には褐色の裏地（素材未詳）を施し、左右とも掌側裏面の穿口やや上に美津濃の商標が附く。

全体に傷みは少ないが、左右とも拇指袋腹側から股にかけて四指袋腹側中央部の同じ箇所が損傷し、右手で特に著しい。これらの損傷は主にザイル操作によるもので、ピックルも扱う利手は特に破損が進んだようだ。四指袋中央の破損は補強すべき箇所を読み切れなかったからか。破損箇所には丁寧な補修が施される。

製作工程は上述の記載順序とは別だが、少ない縫製手順で防寒と操作性の両立を図った造りは、熟練した職人の技術を前提としていよう。美津濃製とはいえ既製品ではなく、好日山荘の海野治良や立教大學山岳部員の着想と経験を活かした特注品に違いない。登山構想を記した「山縣ノオト」にはミトンを含む手袋についての様々な着想が綴られる。その、着想の再構成と素材の再吟味を経て完成した高所用手袋が、堀田の資料に遺るこのオーヴァーミトンなのだ。

だが、彼等の「解」はこれ一つではなかった。次回以降は資料の参照領域を拡げ、立教大學ヒマラヤ踏査隊が用いた「手の装備」の全体像を見ていくことにする。（吉井亮一）



#### 堀田彌一のオーヴァーミトン

写真左上：掌面観、写真上右：背（甲）面観（掌面・背面とも両手一組の、向かって左が左手用、右が右手用；前回の「五本指」ではデザインの上下から穿口を上、「ミトン」では商標の上下から穿口を下に配した）、写真下左：拇指袋腹面から対向部に連続する補強当布（左手）、写真下中：穿口内側（左手掌面裏、中央に商標）、写真下右：美津濃商標「イツヒ印」（正位置は右下角が下だが、拡大のため傾けて提示）。

全長（穿口～四指袋先端の最大長）：36/36.5。全幅（拇指袋最下端位置）：12/12.5。穿口幅：17/17.5。指袋長：12/12 [拇指袋（最下端～先端）] 10.5/10.5 [四指袋（拇指袋～先端）]。楔形接布寸法：10/10 [穿口底辺] 20.5/20 [両斜辺]。長平帯寸法：30×2/30×2 [帯長×帯幅] 2.8/2.8 [篋状部最大幅]。短平帯寸法：8×2/8×2 [帯長×帯幅]。締金具寸法：3×2.5/2.8×2.3 [長辺幅×短辺幅] 3×0.6/3×0.6 [遊動桿（長さ×直径）]。重量：88/87.5。以上の寸法標示は [右手用/左手用]、単位はcmまたはg。

### ミュージアムdeナイト in 芦峯寺

#### 開催中止のお知らせ

例年、普段と違う「地獄博物館」に大変身した立山博物館を夕涼みがてらお楽しみいただいておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年の開催を中止いたします。

楽しみにされていた方々には大変申し訳ありませんが、何卒ご了承ください。またのご参加をお待ち申し上げます。

### まんだらナイトウォーク

#### —光りと香りのページェント—

9月5日（土）・6日（日）  
18:30～20:30（入苑は20:00まで）

入苑料 一般：400円

※大学生以下、70歳以上無料

夜の「まんだら遊苑」がキャンドルの光に幻想的に浮かび上がり、アロマの香りが広がります。インスタスポットとして知られてきた「まんだら遊苑」の非日常空間をお楽しみに！





## たてはく探検隊 開催中止のお知らせ

毎年、夏休み期間に開催している、恒例の「たてはく探検隊」。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、残念ながら開催を中止します。

楽しみにされていた方々には大変申し訳ありませんが、何卒ご了承ください。

来年度は開催予定ですので、またのご参加をお待ち申し上げます。



昨年度の一コマ

## 令和2年度 文化振興財団催し物一覧 (9月以降分)

### ◆まんだらナイトウォーク —光りと香りのページェント—

期 日：9月5日(土)・6日(日)

開催地：まんだら遊苑

時 間：18:30～20:30(入苑は20:00まで)

観覧料：一般400円 ※大学生以下・70歳以上無料



### ◆道者衆の接待 —坊家御膳の再現—

期 日：10月10日(土)

開催地：教算坊

時 間：11:30～13:00

定 員：10名

参加費：3,500円

申込方法：チラシの申込書にてお申し込みください

(申込期間：8/1～9/11)



### ◆もみじ呈茶会

期 日：11月1日(日)・8日(日)

開催地：教算坊

時 間：11:00～15:00

お薄茶・お菓子無料(無くなり次第終了します)



## 編集後記

令和初の4月からの新年度が始まりました。ところが、残念ながら新型コロナウイルスが猛威を振るい、当館の催しにも大きな影響を与えています。当館をご利用の皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。しかし、「くたべ」にあやかって、コロナに負けずに頑張ります！(鈴)

## ボランティア活動報告

### 教算坊の池清掃を行いました！

4月12日(日)、ボランティア活動恒例の、教算坊の池掃除を行いました。池に溜まった土と落ち葉を掻き出し、鯉たちが気持ちよく泳げるようにする活動です。今年は少人数でしたが、みんなで集中して行い、短時間で終わることができました。(細木ひとみ)

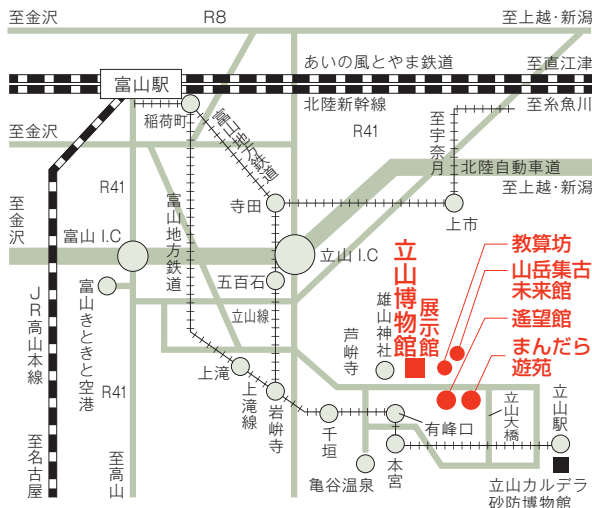


◎例年開催しているボランティア総会は、今年度の開催を中止しました。

## 【おことわり】

本号に掲載する企画展・イベントは、今後、新型コロナウイルス感染症の拡大防止などにより、内容を変更するか中止とさせていただきます場合があります。その際にはHPに掲載いたしますが、詳しくはお問い合わせください。

## 案内図



### ●最寄り駅

富山地方鉄道立山線千垣駅  
下車徒歩(約2km)  
※日曜を除き町営バス運行  
「雄神社前」下車すぐ

### ●自家用車で

JR富山駅から 約45分  
立山駅(千寿ヶ原)から 約10分  
富山インターチェンジから 約35分  
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ

## 富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1  
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144  
<http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/home.html>

Facebook あります! [立山博物館](#)

